

会員数(54・5月現在)

逗子地区 127名

栗山地区 199名

大船地区 67名

合計 393名

吟道月報

日本詩吟学院風会 認可
神奈川 碩心会 発行

54・5月

第82号

発行者

根岸 岳 萃

編 集

中 秋 村 愛 風
元 梁 風

思 い 出 の 詩

広 瀬 翔 風

早朝散歩を始めた頃はまだ桜の
 蕾も固い頃でしたのに今はもうつ
 つじの花も終りに近い頃となり、
 雨上り青葉目にしむ朝の道^ななんて
 下手な句もでる季節となりました、
 こんな季節になるとレキリに亡
 き母の事が思い出されるのです、
 まだ三人の子等が幼なかつた頃病
 弱だった私は長男を田舎の母のも
 とにひきとってもらい田舎の保育
 園を卒業させてもらった程長い間
 預って貰いました。それ以来二人
 の男の子は夏休みになると田舎で
 過すのが例になりました。子供達
 にとってもよい祖母でした。

その母も七人の子女を片付けて
 からは心身共にがっくり弱り余生
 の十余年はぬけがらの様でした。そ
 の母が五十二年三月脳軟化で倒れ私
 は弟の車に同乗して深夜の国道六号
 線を祈るような気持ちで北へ向いま
 した。青山歌の故郷に親あり更に衰
 老明年又應にこの道を下るべれの詩
 をみたらすすらの心の中で吟じつつ無事
 を祈り幾度か見舞った母も明年を待
 たず倒れて三月目に黄泉の国へと旅立
 ちました。子供の育成に命を燃焼し
 つくした女の衰れさが胸に痛みました。
 今自分もありれ日の母の年に達し
 三人の子も巣立つた後の心の空洞、
 そして多少ガタのきた身体も詩を吟
 ずれば忘れさせてくれます。一年を
 短かく暮してゆけるのも諸先生、皆
 様のおかげと感謝しております。

来し方に心のゆとりなかりけり

老いて楽しむ吟の道かな

翔鳳

外国に旅立つ吾子の衣縫うに

千々の思いに糸が通らず

翔鳳

敖室外温習・新緑の旅

滝の坂支部長宮寺康泉

連休前半の天候とは打って変わった端午の節句の日、開設以来四周年を迎えようとする滝の坂敖室では敖室外温習の旅に出発しました。主催の佐久間溪風先生門下に中村京愛先生門下の御婦人方が参加、花を添えて下さり、総勢二十二名がマイクロナックスバスでの豪華で、そして家族的な旅となりました。

バスは相模湖を経て若い人達で賑う清里をぬけ、残雪輝く八ッ岳の峰を右に左に見ながらまばゆいばかりの新緑の美しいから松林の八ッ岳横断道路をどこまでも走り、白樺の、美しい森を通って目的地の増宮温泉、金泉閣へ、花山吹の美しさに見とれながら宿に着く。

人里離れた甲斐の山深いこの温泉はラッシュム含有量世界一といわれ、冷たい源泉に三十分つかりてして温い湯で上る。私も裸のおばあさんと二人冷たい浴槽の中で肌ふれあって孫の話やらに話がはずみ山奥の温泉ならではの湯治気分にあたる事ができました。思い出の一夜はまず富士山の合吟にはじまり、吟に舞に隠し芸にと楽しくくりひろげられました。

翌六日は白洲のサントリ工場を見学、南アルプスの駒ヶ岳のふもと、広々とした万緑の中に洋風の素晴らしい建物がマッチしてまるで額縁の絵のよう、ヤシで発酵する芳醇な香りと共に旅のよさを満喫させてくれました。素晴らしい天候に裏富士の眺めは又格別で裾野に広がる放牧の牛の群が道路を横ぎりればバスも止められる珍しい風景が思わずシャッターをおす一幕もありました。

運転手さんの心配りで東もスムーズに進み往復の車中は程よいアルコールも手伝ってか吟あり民謡あり歌謡曲ありのそれはそれは楽し

い勞田氣の旅でレた。この様な旅は人の和、
ひいては吟道の精進につながるのではないで
しよつか、オニ回目の旅を今から楽しみにレ
つつ筆をおきます。

銀嶺の夙呑み甲斐の鯉のぼり 溪風

雪山の水白洲に美酒育て 桂風

五月富士からまつ芽のまだ固く爽風

富士の水張りつめ棚田の田植待つク

萬縁のふところ洋酒の樽ねむるク

◎秋季査定課題吟について

秋季査定は九月九日(日)を予定されております
が課題吟は前回と同じという事に決定いたし
ました。課題吟は五十三年六月号の月報に記
載してあります。

(訂正事項)

五十三年六月月号報記載の鈴木美山さんの投
稿記事中の詩文の中、凄夙帯(夙)とあるを雨に
忽見巨(夙)とあるは利が正レイトの松和支部字
部宮徳泉さんから補正がありました。

(名簿の訂正)

39 根岸秀夙 40 根岸治夙さんの電話番号を

〇五六八―七五―三二八四に訂正

(移動)

95 近藤尚夙 桜山Aより桜山Bに

361 高橋妙子 沼田より桜山Bに

74 佐藤竹山 一色のAから一色のCへ

(入会)

(堀内支部) 〇小形 雄一 横須賀市長浦云九二

(大船支部) 〇中島トミ子 戸塚区岡津町九三三

(戸塚支部) 〇徳井 直樹 戸塚区新橋町九九一

(元町支部) 〇深井 勝二 葉山町堀内八五〇

(退会)

123 推野紀山(桜山) 245 森朗泉 286 三枝木峰泉

368 横山時秋 384 高橋みよ 浜田親也

三井先生の或るお弟子さん……楽しみにして
ますが紙面の都合上次号に……お許し下さい

(裏面に会計報告記載)

53年度 会計報告 (53-1-1~54-3-31)

	摘 要	収入金額	支出金額
収入の部	52年度よりの繰越	373,885	
	総合本部費	328,860	
	許証料割戻金	482,750	
	吟道代	50,000	
	放本取扱料	10,000	
	利 予	2,199	
	合 計	1,247,694	
支出の部	県本部費		180,000
	全催事補助		162,478
	外部催事出吟補助		146,150
	昇任期師範謝礼		330,000
	吟道代総本部支払		36,000
	会場借上料		8,100
	中元及歳暮		36,000
	事務費及備品費		2,560
	理事会等の茶菓代		15,300
	役員旅費		4,600
	通信連絡費		14,200
	香典及見舞		20,000
	月報及コピー代		160,490
	優勝カップ		30,700
	合 計		1,196,578
差引残金 51,116円 ^印 は来年度へくりこし 会計監査 蒲谷 蒼 岳 井沢 潮 岳 会計部長 千葉香風 ^印			

従来は毎年一月を新年度として参りましたが、五十四年度より四月を年度替りとする事になり、今度の会計報告に限り、五十三年度一月一日から、五十四年度三月三十一日迄の期間の報告となりますので御了承下さい。